

伊勢の **今** を伝える

ISEBITO NEWS

夏 号

第11号

11

●発行 伊勢文化舎 伊勢市観光協会
おかげ参り推進委員会
●発行部数 10万部
●企画・編集 伊勢文化舎
〒516-0016 三重県伊勢市神田久志本町1474-3
TEL (0596) 23・5166 FAX (0596) 23・5241
E-mail otayori@isebito.com

お白石持の夏、始まる！

かわびき おかびき
川曳で、陸曳で
ないくう
内宮さんへ、外宮さんへ――。
お白石を満載し、
二十年に唯一度
神領民総出の熱い夏！



お白石の樽を満載して町内を試曳。(常磐第一奉献団) 撮影/本紙

遷御の儀まで二カ月余

今、伊勢神宮を訪れると、神域がひとときわかるく感じられる。新宮をはじめ参道の鳥居の造営もほぼ終了して、真新しいヒノキの素木の輝きが周囲を明るくしている。千三百年の歴史ある大祭、神宮式年遷宮まで、ついに残すところ二カ月余となった。

新宮の仕上げには、二十年に一度の旧神領民の出番がある。新御敷地の最も奥にある正殿の周囲は白い石が敷き詰められるのだが、その白石を神領民のひとりひとりが手に持って奉納する行事、お白石持行事(国指定選択無形民俗文化財)である。

この日のために、旧神領を中心に七十七奉献団が組織された。伊勢の郊外を流れる宮川の川原でお白石を拾い集め、木遣りを練習し、揃いの法被を新調してこの日を迎える。

全国各地から七万人の特別神領民もお白石持行事のために伊勢へやってくる。彼らを迎える伊勢市駅前に、民間の力でヒノキの鳥居も完成した。

また、外宮まがたま池畔の「せんぐう館」が開館から一年余りで入館者数五十万人を超えたというのもうれしい話題だ。

神宮式年遷宮を機会に伊勢と全国各地を結ぶさまざまなネットワークが生まれる気配が感じられる。

遷御の儀 内宮 十月二日

外宮 十月五日

●問い合わせ 神宮司庁
0596・24・1111

遷宮で 結ぶ人の輪 心の輪
第六十二回神宮式年遷宮

●主な内容

2・3面 内宮奉献ガイド

4面 内宮領奉献団の抱負

5面 お白石持のまち(一)

6面 遷宮準備すむ

7面 伊勢まちの話題

8面 いせびと歳時記

お伊勢さんへの

エンヤー！

五十鈴川に、伊勢の街道筋に、神領民たちの掛け声がひびく。
遷宮で新しく建て替えられた神殿の庭に、
川曳、陸曳で白い敷石をお納めする、お白石持行事だ。
秋の遷御を前に、伊勢の町衆の出番が来た。

心が一つに

神領民たちの晴れ舞台

川や道路の真ん中を、揃いのハッピを着た千人前後の大人や子どもたちが二本の綱を曳いて歩く。その長さは百メートルから二百メートル以上。

川ではソリ、陸では奉曳車にお白石を入れた木樽を積み上げ、内宮へ奉曳するお白石奉献団の一員である。川曳ではホラ貝が、陸曳では太鼓や奉曳車のワン鳴りがひびくなか、木遣り唄が曳き手た



五十鈴川の清流を川曳する内宮領奉献団。

お白石持は「信心持」

中世以降、神宮の所領地となった伊勢の神領民がこぞってお白石を奉献するようになったのは、記録の上では江戸初期の寛永六年（一六二九）にさかのぼる。もともとは年貢の代わりに課せられた使役だったが、ふだんは立ち入れない御垣内で真新しい社殿を仰ぎながらご奉仕できることを、伊勢の人びとは神領民の特権として誇りをもって担ってきた。

お木曳では、かつて内宮領だった団は内宮へ、外宮領だった団は外宮へ奉曳するのが習わしだが、

大神様へのご奉仕に加えて四百人近くお白石持が繋いできたのは、綱を持つ全員が心を合わせ、各町の伝統を受け継ぎながら地域の絆を深められる喜び。和の心である。お白石持は、地元の旧神領民と共に、全国の神社の氏子からなる七万余りの特別神領民が参加する。その準備にあたるのが、神宮司庁や伊勢市をはじめ地元の各団体が協力して立ち上げた御遷宮対策事務局だ。特別神領民が安全に楽しくお白石を奉献できるよう市民ボランティアを募集し、地元奉献団の木遣りや梶子方など多数の市民が参加。暑い盛りに熱中症にならないようこまめに給水するなど、一日四百人態勢で奉曳をサポートする。



綱を左右に練りながらおはらい町を陸曳。

大神様への感謝と奉曳が繋ぐ和の心を 清らかなお白石に託して

「奉仕するという気持ちがみなさんの中で大きくなり、これはすごいご遷宮、お白石持になると手応えを感じています。私自身が体験してきた昭和四十八年のご遷宮のとき以降、最高の仕上がりです」と同事務局長の奥野勇さん(56)。満を持して本曳を迎える。
(文・橋本義男)

お白石持ではいずれの団も両宮に不足に悩む内宮へ外宮領民が自発的にお白石を奉献。「信心持」と称えられ、それからは両宮にお白石を奉献するようになったという。

お白石持行事の日程	
内宮奉献	
地元奉献団	川曳…7月26日(金)、27日(土) 陸曳…7月28日(日) 8月11日(日)の金・土・日 (8月4日を除く)
特別神領民	
陸曳…7月27日(土)	8月12日(月)の金・土・日
外宮奉献	
地元奉献団	陸曳…8月17日(土) 9月1日(日)の金・土・日
特別神領民	
陸曳…8月18日(日)	9月1日(日)の金・土・日



晴れやかな心で新御敷地へ(写真はすべて平成5年のお白石持)。



伊勢物
名物

赤福

本店 〒516-0025 伊勢市宇治中之切町26番地
電話 0596-22-2154(代) フリーダイヤル 0120-081381
<http://www.akafuku.co.jp/>

内宮領 奉献団

川曳の抱負



内宮：7月26日

外宮：8月18日
(陸曳)

宇治奉献団

太古と変わらない清らかな涙の川・五十鈴川をさかのぼってお白石を奉獻できることは、何よりありがたく、皇大神宮お藤元の団として、力を合わせて立派に奉獻を成し遂げたいと思います。

二軒茶屋奉献団



内宮：7月26日

外宮：8月18日
(陸曳)

当町は世帯数も少なく、質素に身の丈に合った奉獻に徹し、先輩の守ってこられた伝統を続けていきます。平均年齢60歳代の一丸となった奉獻を見てください。

松下奉献団



内宮：7月26日

外宮：8月18日
(陸曳)

川曳のソリに五色の旗を立て、その上に日の丸の扇子を掲げるのが、松下の伝統です。地区総出で奉仕し、平成27年に迎える松下社の御遷宮にもつなげていきます。

江清渚連



内宮：7月26日

外宮：8月18日
(陸曳)

清渚連は浜参宮で有名な二見興玉神社の氏子家であり、名に恥じないよう肅々とお白石奉獻を勤め上げます。宇治橋よりエンヤ曳でソリを引き上げるときは勇気を見てください。

二見浦茶屋清渚連



内宮：7月26日

外宮：8月18日
(陸曳)

「華麗に奉曳・静粛なる奉獻」を基本精神とし、出会い・交流・親睦も大切にしています。伝統行事「二見大祭しめなわ曳」も運営する実行委員をはじめ、茶屋区民が一丸となつて奉仕します。

三津奉献団



内宮：7月26日

外宮：8月18日
(陸曳)

真新しい御垣内にお白石をご奉獻できる喜びに感謝し、三津区神領民が一致協力して無事に奉仕することを願っています。川曳では元気で威勢のある木遣りと子供連を見てください。

山田原奉献団



内宮：7月26日

外宮：8月18日
(陸曳)

77奉献団で最小規模の団ですが、一致団結力はとても良く、全団員が心一つにして、真新しい御正殿の御敷地へお白石をお納めしたいと思っています。

溝口奉献団



内宮：7月26日

外宮：8月18日
(陸曳)

出発に花を添える踊り部の「おみな衆」が約30人、女性木遣りが5人おり、おみなパワを活かして華やかに、元気に奉獻します。

光の街奉献団



内宮：7月26日

外宮：8月18日
(陸曳)

新参の団ですが、皆様方のご協力を得てここまでやってこられました。若くて元気のある、団結した勇ましい奉曳を見てください。40人ほどの子供木遣りは、団と地域の宝です。

中村町奉献団



内宮：7月27日

外宮：8月17日
(陸曳)

18歳から45歳までが所属する「少壮会」が中心となり、清流の中で躍動感のある練りやエンヤ曳を披露します。

楠部町奉献団



内宮：7月27日

外宮：8月17日
(陸曳)

楠部町は神宮神田の御田植初での奉仕作業を行っており、神宮との繋がりが深い団です。お白石を積んだソリが宇治橋に近づく、宇治橋の欄干に団の幟旗を掲げること唯一許されています。

一宇田町奉献団



内宮：7月27日

外宮：8月17日
(陸曳)

自治会会員が77世帯と小さな団ですが、綱の先頭で3人がホラ貝を随時吹き、木遣りも17人(うち女性2人、子供7人)が唄うなど、ピリツと輝く奉獻を目指します。

朝熊町奉献団



内宮：7月27日

外宮：8月17日
(陸曳)

朝熊町が一団になって初めてののお白石持で、郷土の名産にちなんだ朝熊小菜首頭を出発前に初披露します。木遣りも総勢49人、うち子供が34人おり、元氣な奉獻を見てください。

鹿海町奉献団



内宮：7月27日

外宮：8月17日
(陸曳)

「今日はめでたや、老いも若きもみんなそろって石を曳け」と唄う木遣りのように、町が一丸となって御奉獻にぞみます。木遣り隊が烏帽子若(宇治橋手前)から元氣に飛び込むパフォーマンスも見どころです。

桜木町奉献団



内宮：7月27日

外宮：8月17日
(陸曳)

川面に映える青の法被に朱色の桜の文字、華麗なソリ。威勢の良い木遣りやホラ貝の鳴り響くなか、この荘厳さがいつまでも心に残ります。

桜が丘奉献団



内宮：7月27日

外宮：8月17日
(陸曳)

神宮の神事に奉仕することを通して「神領民でよかった」という誇りを町民に持つてもらいたいです。団長は女性であり、お木曳と同様に今回も女性担子がいます。

中之町奉献団



内宮：7月27日

外宮：8月17日
(陸曳)

ソリの装飾は、基本的に幟と神のみと伝統的に簡素です。この日のために地元で育った神を用い、簡素かつ厳粛にご奉獻にぞみます。

五十鈴ヶ丘奉献団



内宮：7月27日

外宮：8月17日
(陸曳)

華美を競ったり、特別なお祭り騒ぎをしたりせず、肅々と品格のあるお白石奉獻を目指します。

伊勢古市・久世戸奉献団



内宮：7月27日

外宮：8月17日
(陸曳)

お白石を無事に奉獻できるよう、参加者全員が団結し、我が団のモットーである「楽しく、ハテに!!」を実行します。

奉祝 第62回神宮式年遷宮



伊勢おはらい町
豆腐庵山中

伊勢市宇治中之切町95番地
電話0596-23-5558 定休日/木曜

美しい五十鈴川の水を生かした
豆腐を作りたい



「和妙」にぎたえ
水の良さを最大限
ひきたせるよう
作りあげた豆腐です。



おとつふソフト
「和妙」を50%以上含んだ、とつふの
ソフトクリームです。

コイン270円



うの花ビーなつ
90円



あんビーなつ 130円

うの花ビーなつ
豆乳とおからを
練り込んだ
ヘルシードーナツです。



伊勢内宮前
いせぎ
TEL0596224175
FAX0596242510



<http://www.nikodo.co.jp/>

祝 第62回神宮式年遷宮



外宮さんと内宮さん二つのお宮が
永久に光輝く地で商いをさせていただく縁より
「二光堂」と名づけました。

お白石持のまち

4回シリーズ
第2回

お白石持は、伊勢の各町の歴史や気風を反映しながら、今日まで受け継がれてきた。代表的なお白石持の町を訪ね、奉献のあらましや町の見どころ、味どころなどを紹介する。



爽やかな風が吹く朝熊山。

その3 朝熊町

あさまちよう

朝熊町奉献団

霊山の麓に新風吹かせる 自然豊かな山里

内宮奉献 7月27日(土)
外宮奉献 8月17日(土)



旧内宮領の中村町や楠部町、一宇田町、鹿海町など四郷地区のうち、最も面積が広いのが朝熊山北麓の朝熊町。「自然が豊かで空気がおいしいし、里のみなさんも和気あいあいとしていて、町外から帰ってくるとほっとします」と朝熊町奉献団団長(内宮奉献)の森眞光さん(78)は微笑む。

町名の由来でもある朝熊山(五五五)は、伊勢志摩地方の最高峰。古来より山岳信仰の対象として、多くの人が山頂の金剛證寺に岳参りをした。麓の各地から造られた岳道は車の時代になって衰退したが、近年健康のために歩く人が多いのが朝熊町の集落から登る朝熊岳道だ。山頂までゆつくり歩いて二時間ほどと距離が短く、その中腹や山頂からは、伊勢平野や伊勢湾の雄大な風景が見晴らせる。夏は山の上を吹く涼風が心地よく、空気の澄む秋から冬にかけては伊勢湾の形もはっきりわかる絶景ハイキングコースに。

山麓には絆の森や朝熊山麓公園など豊かな自然を活かした健康づくりや憩いの空間が増え、かつて良材の産地としても名高かった朝熊山の自然は懐が深い。

朝熊おろしが吹く冬は、屋根が



朝熊山麓は裾野が広く、緑が多い。その向こうに伊勢湾を見晴らせる。



大正から昭和初期にかけてふるさとの朝熊で創作活動が続け、日本の近代彫刻に大きな功績を残した橋本平八の生家が残る。



朝熊小菜音頭の練習風景。名産の郷土野菜とともに朝熊の里の魅力を伝える。

奉 献 団 の わがまち自慢

鏡宮神社

五十鈴川と朝熊川の合流地点の三角州に祀られ、三方を水に囲まれた風光明媚な社。朝熊川対岸の朝熊神社の御前神で、内宮末社。



食べるスープ

県営サンアリーナ内の食べるスープカフェ「ラグルッパ」では、地元食材たっぷりのスープを250円から各種味わえる。長時間かけて手作りしたやさしい味わいだ。写真はパンとサラダ付きのCセット550円。
☎0596-27-5350



奉 献 団 の わがまち自慢

喜八屋の「伊勢うどん」

船江上社の向かいにある昔ながらのうどん店。味を守るためにタレは創業以来、半分ずつ作り足しているのだそう。まろやかな味にファンは多い。伊勢うどん400円。カレーうどん600円。
☎0596-28-2783



真っ白になるほど降る霜が郷土野菜の朝熊小菜(アブラナ)の一種を育む。葉はやわらかく、茎はシャキシャキと歯ごたえがあり、漬物にするとおいしい。町内の多くの

人が自家用に作るほか販売もされ、伊勢の冬の味覚として人気が高い。「朝熊町は前回の遷宮までは二つの町内会がそれぞれ奉献団を結成していましたが、今回初めて一つ

にまとまってお白石を奉献します。合同記念に『朝熊小菜音頭』を作り、出発前に踊ります」と森さん。朝熊の森と里には、いつも新しい風が吹いている。(H)

小津安二郎記念碑

三重県立宇治山田中学校を卒業した映画監督・小津安二郎を顕彰する記念碑。小津を偲ぶ市民により、同校の跡地である船江公園に建てられた。



そのすぐ近くには、映画監督・小津安二郎や詩人・竹内浩三が通った宇治山田中学校の跡地(現・船江公園)も。昔も今も、たくさんの人が行き交うまちだ。(N)

その4 船江

ふなえ

船江神習組奉献団

参加人数は市内最多！ “温故知新”のまち

内宮奉献 7月28日(日)
外宮奉献 8月23日(金)



龍ヶ池と船江上社。境内では、吉王稲荷神社、龍ヶ池の祭神・龍姫命ほかたくさんのお神様がまつられ、さながら神々の団地のよう。



スーパー、ホームセンター、書店など何でも揃うSC「ミタス伊勢」。後方は伊勢赤十字病院。



試し曳には約1000人が参加。本曳当日には約500mの綱を用意する。

長い歴史の中で多くの団が統廃合を繰り返してきたが「わが町は昔から大きく、それでいてまとまりを保ってきたことが自慢です」と船江神習組奉献団団長の西田正さん(53)。「記録によると、平安時代(一一六五年)の文獻に『神習組』という名がみられるんですよ」と語る。今回の遷宮では、第六十回以降途絶えていたこの雅名「神習組」を復活させ、神領民の原点に立ち返ったという。平成十四年

に新調した大奉曳車で、団員が丸となってお白石奉献にのぞむ。現在の船江は、ショッピングセンター(SC)やスーパー銭湯、伊勢赤十字病院などが建ち、伊勢っ子の生活に欠かせないエリアだ。そんななか、町の歴史を伝えるのがSCの近くにしまる氏神・船江上社だ。この神社は、戦国時代、外宮の摂社である河原淵神社が退

廃したときに住民が産土神をまつたのが始まりといわれ、現在、両神社が同じ境内に鎮座する。参道に枝を広げる樹齢七百年以上という招福楠が社の歴史を物語る。境内の正面にある龍ヶ池は、かつて宮川分流がここを通り、勢田川へ注いでいた名残という。平知盛が壇の浦の戦いに敗れた後、秘かに上陸した場所とも伝わる。初夏には満開の蓮が迎えてくれる。

祝 第62回神宮式年遷宮

お多福とともに
岩戸屋は
今も昔も内宮前



伊勢・内宮前おほらい町

岩戸屋

TEL 0596-23-3188 FAX 28-1322

PEARL BOUTIQUE

珠魔

TEL 0596-23-6750

伊勢の土産＆おみやげ

百福

TEL 0596-23-3236

http://www.iwatoya.co.jp



伊勢内宮前 おかげ横丁

電話番号 0596(23)8838

〒516-8558 三重県伊勢市宇治中二丁目52

http://www.okageyokocho.co.jp/

伊勢内宮前 おかげ横丁に誕生
平成25年 7月21日(日) 正午より
遠い昔、そのまた昔から語り継がれてきた、日本の神話。「おかげ座 神話の館」は、天照大神様が祀られる伊勢の里の、これまでになかった本格的な神話体験館です。

おかげ座 神話の館

今、新緑の杜に 新宮の御屋根がまぶしい 神域に清やかな風――

外幣殿は早くも竣工

このところ、伊勢神宮の神域は建築ラッシュの活気に満ちている。新御敷地では、御門をはじめ、御正宮の簀屋根も取り除かれ、御垣越しに真新しい千木や鯉木が輝いて見える。

十月に行われる遷御の儀に向かつて、神域の各所でさまざまな準備が同時進行中なのだ。

すでに竣工したものとしては、内宮の荒祭宮へ至る脇参道沿いの外幣殿がある。萱葺屋根に千木、鯉木をのせ、小ぶりの社殿ながら

神明造の特徴をあまさず備えた端正な姿を見せている。

外幣殿は臨時に大切なものを納める倉で、神宝の仮納めの場所となったり、隣に建つ御桶御倉の造営中はそのご祭神を仮にお遷ししてまつるなど、古くからある多目的な倉である。

一方、外宮の外幣殿は板垣に囲まれた御敷地の内にあり、目にすることは難しい。現在は外宮の新宮の心御柱となる用材を仮納めす

る場所ともなっている。

参道の鳥居も真新しく

両宮表参道の第一鳥居、第二鳥居も、すでに新しくなった。

伊勢神宮の鳥居は、社殿と同じくヒノキの素木柱を掘立式で建てる神明鳥居だ。二本の柱と貫と笠



内宮・第二鳥居。

木のみの簡素な造り特徴として、いる。天空と一線を画する笠木は、一の文字をのびやかに書いた姿をイメージとする。

内宮の神域には、鳥居が総計十二基あるが、すでに九基は完成した。風日祈宮橋の橋詰にある二基は、橋とともに竣工。新御敷地にある板垣御門の四方にある四基と、中の重の鳥居もすでに完成している。残るは三基だが、風日祈宮の前の鳥居は、同宮の遷宮（平成二十六・二十七年中予定）とともに再建される。

宇治橋の両側にある二基の鳥居は、いちばん最後になる。正宮の遷宮が終わったのち、両正殿の棟持柱を用いて建てられる習いなのだ。宇治橋の東詰には内宮正殿



写真上／内宮・外幣殿。写真右／外宮第一鳥居。



の棟持柱が、西詰には外宮正殿の棟持柱が再び活用され、二十年間、入口で内宮参拝者を迎える。また、現在の一对の鳥居は、西

が東海道の関宿（亀山市）の東の追分へ、東は桑名の七里の渡しの鳥居として、さらに二十年間再々活用される。

夏のお白石持行事までには、手水舎なども完成し、さらにすがすがしい神域となろう。（文・乾淳子）

ご遷宮まであと二カ月余り。神域で、伊勢のまちで、着々と準備進行中！

講座、奉納舞台での芸能など、さまざまな活動が行われている。

展示室3・4「永遠の匠たち――御装束神宝の調製」では、五月末に開館後初めての展示替えが行われた。

■展示室3

鶴斑毛御彫馬の工程をみる

外宮・まがたま池の畔に昨年四月オープンした「せんぐう館」は、開館一年余りで入館者が五十万人を超えた。「式年遷宮」を伝える常設展示のほか、折々の特別企画



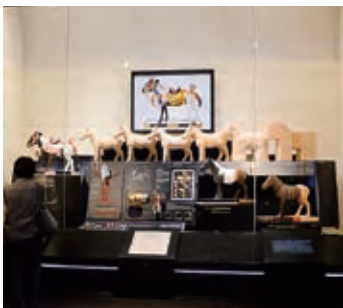
植物染料による絹糸色。

式年遷宮で新しく調製される神宝に六匹の檜彫りの御彫馬がある。

「せんぐう館」展示替え

式年遷宮でのみ伝わる 神宝の美と技を初公開

次に、漆工による彩色。生漆を染み込ませるなど下地塗りだけで少なくとも九工程、その後顔料で上塗りして、ようやく馬体の毛並を描く段取りとなる。



神宝・御彫馬の調製工程品の展示。

複合的に相乗された姿なのだ。

■展示室4 式年遷宮でのみ伝わる 染織品

神宝となる組物（組紐）は、およそ五十五種、延べ二千五百メートル。その中で今日では式年遷宮の神宝としてのみ四条調製されるのが唐組平緒だ。王朝時代の太刀を佩く正装の帯であり、長さは三メートルと長い。組物の中で最も高度な技術を要し、その技を伝える匠はただ一名のみ。展示室にはたくさん

の糸玉を付けた「唐組台」が置かれている。その糸数四百三十二本。この組台で幅十二センチの唐組平緒を一日に組めるのは、わずか一センチ。この組台で幅十二センチの唐組平緒を一日に組めるのは、わずか一センチという。



唐組台の展示。

一方、数多い「神宮裂」の中で唯一染色による縹緗の板締の技法が展示されている。正倉院宝物の研究によって長らく幻とされていた古代の技法が復活されたものという。

また、御装束となる綾や錦の織物染料の美しさを再認識する貴重な展示だ。（文・乾淳子）

せんぐう館
入館料 300円 小中学生 100円
開館時間 9時～16時30分
休館日 毎月第4火曜（祝日の場合は翌日）
0596・22・6263

頭の深（神）呼吸に 来ませんか



商売繁盛
職務安全・出世開運
仕事は独創性とひらめきが大切。疲れた頭と心を癒します。

学力向上
合格祈願
（入学・就職・資格・国家）
現代社会は頭の時代。受験・IT社会の守護神。

心の病氣
頭の病氣・ケガ
頭の神様の大きな御神助を戴いて病氣回復。

頭之守護神 知恵の大神

頭之宮四方神社

0598-72-2316
http://www.koubenomiya.or.jp/

●「松阪」よりJR線又は三重交通（南紀特急）「大内山駅」下車徒歩10分
●紀勢自動車道 紀勢大内山ICより尾鷲方面へ車で5分
●「松阪」伊勢からレンタカーが便利です。いずれも、およそ50分。

神話の時代から続く伊勢志摩の海女文化を伝えたい

海女文化を提供する 兵吉屋

〒517-0032 鳥羽市相違町1094番地
TEL 0599-33-6145 FAX 0599-33-7407



先様の健康と長寿を祝う心を形にした伊勢熨斗。結納長熨斗・のし袋・祝儀袋を取りそろえています。



漁場に近い海女小屋で、海の幸の採り手である海女達の話を聞き、手焼きによる魚介をいただきます。（100名様収容）

祝 第62回神宮式年遷宮
海女の話聞きながら、海女小屋で新鮮な魚介に舌づつま
海女小屋はちまんかまと

伊勢 まちの話題

いちにさん

1 昔の伊勢にタイムスリップ
「神都バス」でのんびりお伊勢参り

今年七月、お伊勢参りの交通手段にレトロな車体の「神都バス」が仲間入りした。かつて伊勢市内を走っていた路面電車「神都線」をモデルにした新型バスで、同線を運行していた三重交通が第六十二回式年遷宮に合わせて、運行を開始した。

「神都線」は、三重交通の前身にあたる宮川電気が明治三十六年（一九〇三）に開業。戦後には山田駅（現・JR伊勢市駅）を起点に伊勢神宮の外宮前、内宮前や、二見を結び、参拝者や観光客に親しまれた。車の普及により、昭和三十六年（一九六二）に惜しまれながら廃線。代わりに路線バスが走り始めた。

「神都バス」は、外観も内装も徹底的に路面電車風にこだわった。珍しいバス車両だ。神都線の特徴だった取り外し式ヘッドライト、架線から電気を集めるポール、路面電車特有の丸い屋根などは、当時の設計図やOB職員への聞き取りを元に忠実に再現。車内でも、窓枠や床、壁などできる限り木目調とし、照明器具や手すりも真ちゅう製、つり革には本革を使用するなど細部にまでこだわりをみせる。最新のワンステップバスを改装したため、車いすでの乗車も可能だ。

奈良県から内宮参拝に訪れた三宅幸徳さん（65）は、「昔ながらの雰囲気であたたかみがあり、とても乗り心地が良かったです」。昔の伊勢に思いを馳せながら、お伊勢参りができそうです。



昭和35年頃の伊勢市内を走る路面電車「神都線」。



上／モデルは、昭和12年（1937）に製造された神都線モ541形式543号車。神都線に入線した最後の車両だ。左／木目調を基調としたレトロな車内。室内灯の型やモケットの色調は当時の車両を再現。左下／7月3日の出発式で、伊勢市の観光PRキャラクター・はなてらすちゃんから花束を受ける運転手。その制服も当時を再現した。



利用券発売所
・伊勢市駅前／外宮前
8時40分～運行終了まで
・内宮前 9時～運行終了まで
三重交通伊勢営業所
☎0596・25・7131

2 「ようこそ伊勢へ！伊勢の玄関口（伊勢市駅前広場）でヒノキ鳥居がお出迎え

伊勢市の玄関口ともいえる伊勢市駅前にヒノキの鳥居が完成した。伊勢市駅と駅前広場の整備に合わせたもので、二十五年前に駅前に鳥居が建立されることとなった。

鳥居の「くぐり初め」が行われたのは、六月八日のこと。まず、子供たちが奏する鼓笛隊や子ども神輿（こみこ）にぎやかに鳥居をくぐり抜け、そのあとに参加者たちが続いて、外宮参道を通り、外宮前広場まで行進した。

神宮からは大宮司、少宮司もテープカットに臨み、鳥居の完成を祝福した。

鳥居の高さは五・二メートル、幅四・五メートル。用材は伊勢神宮が管理する宮域林より提供された。鳥居建築の募金は伊勢商工会議所などによる鳥居建立委員会を中心に行われ、総計約千六百二十万円の寄付が寄せられた。

この日は、早朝から全国各地の土産の外宮奉納が行われ、その後、北御門（きたみかど）広場でその土産と同じ全国の珍しい土産が外宮奉納市で販売され、にぎわった。

一方、伊勢商工会議所では遷宮フォーラム「式年遷宮と日本の祭」（講師・神崎宣武氏）も開催された。



鳥居竣工の日、伊勢の子供たちが先頭を走り、総勢500名によってくぐり初めが行われた。

3 神領民の伝統を後世へ
「お白石持行事調査団」結成

七月二十六日から始まる「お白石持行事」に合わせ、皇學館大学と伊勢文化舎では、合同で「皇學館大学お白石持行事調査団」（団長・同学文学部教授 櫻井治男氏）をこのほど結成した。教員や学生、同舎のスタッフなど二十名が各町や奉曳当日に取材へ出向き、今年度末に報告書としてまとめる予定だ。

お白石持は、遷宮を遂行するために重要な行事であるとともに、伊勢の民俗行事として、各町のアイデンティティーを育んできた行事でもある。伊勢文化舎では、今年十一月にお白石持



6月27日に行われた顔合わせと意見交換会。



桜木町で展示されているお白石。

化などにともない、団の維持、技術の伝承など厳しい状況を迎える町の現状が浮かび上がった。そこで同舎が、行事を二十年後につなげるために櫻井教授に相談。双方で調査団を結成するに至った。

今後は、伝統や技術の伝承へ向けて、お白石の保管場所、習俗などを調査・記録していくほか、世帯数の現象や構成の変化などの視点からも調査をおこなう予定だ。

ゆとりとやすらぎの宿
神宮会館
伊勢神宮崇敬会

内宮に一番近い宿・歩いて5分
どなたでもご利用いただけます



〒516-0025 伊勢市宇治中之切町152
TEL 0596-22-0001 FAX 0596-22-1517

<http://www.jingukaikan.jp>



早朝参拝の
ご案内をしております。



- ◆本社 伊勢市上地町2691-13
電話0596・23・1281(代)
☎0120-00-0707
- ◆本店(外宮前) 伊勢市本町13-7
電話0596・23・3141(代)
- ◆参宮楽勝 伊勢市上地町2691-51
伊勢問屋センター前
電話0596・20・3958(代)
- ◆内宮前店 伊勢市宇治中之切町87
電話0596・28・0081

E-mail info@sekiya.com
<http://www.sekiya.com>



一階／店舗 午前九時～午後七時
二階／茶房「あそらの茶屋」 軽和食・喫茶「御膳の朝かゆ」(朝のみ)
ギャラリー
午前七時半～午後五時 年中無休

祝 第62回神宮式年遷宮

食の神さま外宮さまの見守る前で
日々精進を重ねて参ります。

いせびと歳時記

夏の伊勢志摩のまつり・イベント情報

7月

下旬
御塩浜の採鹹作業

御料のひとつ御塩をつくるための鹹水（濃縮された海水）を採集する作業で、昔ながらの入浜式製塩法をみる事ができる。

伊勢市二見町西 御塩浜
伊勢市庁 0596・24・1111



御塩浜の採鹹作業

8月

1日木
外宮さんゆかたで千人お参り

下段参照。

2日金〜28日水
夏の鳥羽湾毎夜連続花火

鳥羽の小浜湾・佐田浜・安楽島湾のいずれかで期間中の毎夜、約100発の花火が打ち上げられる。

伊勢市 小浜湾、23日と26日・28日／佐田浜、4日・10日・安楽島湾、11日・15日
伊勢市観光協会 0599・25・5096

3日土
大淀祇園祭と花火大会

疫病除けと農・漁業の繁栄を祈る祭。町内を一巡した山車を2隻の漁船に乗せ、大淀漁港を周遊する海上渡御は見もの（17時頃から）。19時からは数千発の花火が夜空を彩る。

伊勢市 御神渡、13時〜（山車）
伊勢市観光協会 0596・55・4077

4日日
風日祈祭

農作物や五穀の実りが、風雨の災害もなく豊かであるよう、御幣を捧げて祈る。

伊勢市 伊勢神宮
伊勢市庁 0596・24・1111

10日土〜25日日
伊勢の匠展

伊勢春慶など、伊勢の暮らしを支えてきた素朴かつ精巧な匠の技の数々を、一堂に集め展示。手作り教室も行われる。

伊勢市 伊勢市庁、おかげ横丁
伊勢市観光協会 0596・23・8838

13日火〜15日木
河崎音頭踊り

河崎音頭と踊りは日本のいくつかの盆踊りの源となったもの。音頭は三味線や太鼓などにあわせ、浄瑠璃をベースとする独特の節回しで歌う。踊りは素朴でゆっくりにテンポのもので、風情がある。

伊勢市 伊勢市庁、おかげ横丁
伊勢市観光協会 0596・23・8838

14日水
波切の大念仏

志摩市大王町一帯に伝わる盆供養。和傘の周囲に幅40センチほどの布が垂らされた傘ブク（傘鉾）に、新亡の家族が小さな提灯や故人の遺品をつるし、念仏を唱えながら輪をつって回る。

15日木〜16日金
かんこ踊り

シャゲマと呼ばれる白馬の毛で作られたかぶりものを振りながら、かがり火を中心、羯鼓を叩いて夜更けまで踊る精霊踊り。県の無形民俗文化財。

17日土〜18日日
佐瑠女神社例祭

芸能の神・天宇受売命をまつる佐瑠女神社の例祭。17日の宵祭ではステージイベントもあり、境内を埋め尽くす提灯の点灯は壮観で美しい。

25日日
愛洲氏頭彰祭・剣祖祭

愛洲影流を生んだ剣の達人・愛洲移香斎久忠を顕彰する祭で、日本全国、海外から剣の達人が集まる。慰霊祭や演武、詩吟の奉納の他、子供たちによる白熱した野試合も行われる。

17日土〜18日日
佐瑠女神社例祭

芸能の神・天宇受売命をまつる佐瑠女神社の例祭。17日の宵祭ではステージイベントもあり、境内を埋め尽くす提灯の点灯は壮観で美しい。

25日日
愛洲氏頭彰祭・剣祖祭

愛洲影流を生んだ剣の達人・愛洲移香斎久忠を顕彰する祭で、日本全国、海外から剣の達人が集まる。慰霊祭や演武、詩吟の奉納の他、子供たちによる白熱した野試合も行われる。



かんこ踊り

購読のご案内

本紙を購読ご希望の方は、ご住所・お名前・電話番号・号数・部数を明記の上、下記の料金案内をご確認いただき、伊勢文化舎までお送りください。（1・6・8号在庫なし）
・1〜5部 送料100円（切手可）
・6〜10部 送料200円（切手可）
・11部以上 送料は着払い。別途梱包料500円が必要です。
（注）101部以上は料金が異なりますので、お問い合わせください。
（お問い合わせ・送付先）
〒516-0016 伊勢市神田久志本町1474-3
伊勢文化舎内「いせびとニュース」係
TEL0596・23・5166



剣祖祭

下旬
抜穂祭

神嘗祭はじめ、諸祭典にお供えする御料米の初穂を抜き奉る祭。

伊勢市 伊勢市庁、おかげ横丁
伊勢市観光協会 0596・23・8838

写真展「日本人のこころ」
〜神宮の森〜

第62回式年遷宮を迎える神宮の森の知られざる自然の美しさ・奥深さに迫る写真展。入場無料。

伊勢市 伊勢市庁、おかげ横丁
伊勢市観光協会 0596・23・8838

17日土〜18日日
佐瑠女神社例祭

芸能の神・天宇受売命をまつる佐瑠女神社の例祭。17日の宵祭ではステージイベントもあり、境内を埋め尽くす提灯の点灯は壮観で美しい。

25日日
愛洲氏頭彰祭・剣祖祭

愛洲影流を生んだ剣の達人・愛洲移香斎久忠を顕彰する祭で、日本全国、海外から剣の達人が集まる。慰霊祭や演武、詩吟の奉納の他、子供たちによる白熱した野試合も行われる。

伊勢市 伊勢市庁、おかげ横丁
伊勢市観光協会 0596・23・8838

「お白石持行事」について深く知ろう

■第六十二回神宮式年遷宮展
「御白石」（神宮徴古館）

神宮徴古館では現在、第六十二回神宮式年遷宮展「御白石」を開催中だ。本展示では、お白石持行事と神領民との関わりにスポットを当てている。まずはその歴史について、写真パネルや絵巻物などによって紹介。なぜ敷石をするようになったのか、また戦後、お白石持行事が一時中断となったときに伊勢市民の尽力により復活したことを紹介。奉獻団にまつわるものでは、白石奉獻の木遣歌や法被コレクション、木遣りの采、奉曳車の模範などを展示。白石・清石の標本を設置して、その材質なども説明している。お白石持行事がどうやって始まり、なぜ今のようなかたちになったのか、理解を深められる内容だ。



神宮徴古館

八朔にはゆかたで外宮さん
ゆかたで千人お参り

八朔参宮の風習を伝える伊勢らしい夏の風物詩。今年は、遷宮を奉祝し、外宮周辺で踊りなどさまざまな催しがある。

伊勢神宮 外宮さん
ゆかたで千人お参り



伊勢神宮 外宮さん

伊勢からの便り

本紙では今号、次号、次々号の三号にわたり、内宮領、外宮領のお白石奉獻の様子をレポートします。今夏は曳き手もギャラリーもエンヤ1！で暑気払い。この夏、祭一色の伊勢にお出掛けください。

伊勢文化舎代表 中村 賢一

平成25年
7月末
発刊

A5変型判／144頁
定価1300円＋税



祝 第62回 神宮式年遷宮
地元発ならではの！
大祭の核心を伝える記念の一冊。

二十一年に一度の大祭を前に

伊勢神宮の式年遷宮は、新社殿の造営、御装束神宝の調製などにかかわる日本古来の技術とその精神を、千三百年という時を経てくり返し伝えてきた、誇るべき文化です。

本書では、八年前の山口祭に始まった三十三の祭り・行事を振り返るとともに、神宝を調製する当代一流の匠から、米、塩などの御料づくりに携わる地元民まで、お伊勢さんに仕えるさまざまな人々の営みを紹介しています。

記念出版
お伊勢さんと遷宮
〜第62回神宮式年遷宮を追う〜
8年間の取材の集大成！

平成25年 7月〜9月	平成24年 3月	平成21年 11月	平成20年 4月	平成19年 5月〜7月	平成18年 4月	平成17年 5月
御白石持行事 （お白石持行事）	立柱祭 （りちゅうまつり）	宇治橋渡始式 （うじはしわたりはじめしき）	鎮地祭 （ちんちまつり）	御木曳行事・第二次 （おきひきぎぎ・だいに）	御木曳初式 （おきひきめしき）	山口祭 （やまぐちまつり）
御船代奉納式 （みふねほうなうしき）	御形祭 （ごぎまつり）	上棟祭 （じやうとうまつり）	御船代祭 （みふねまつり）	御木曳行事・第一次 （おきひきぎぎ・だいに）	御木曳初式 （おきひきめしき）	御木曳初式 （おきひきめしき）
心御柱奉建 （しんのみはしらほうけん）	洗清 （あらいきよめ）	樺葉祭 （こははまつり）	後鎮祭 （ごちんまつり）	御装束神宝読合 （おんしやうそくじんぼうよみあひ）	川原大祓 （かわはらのおほはら）	御飾 （おかし）
遷御 （せんぎ）	大御饗 （おみけ）	奉幣 （ほうへい）	古物渡 （こものわた）	御神楽御饗 （おみくわみけ）	御神楽 （おみくわ）	御神楽 （おみくわ）

編集・発行 (有)伊勢文化舎

〒516-0016 三重県伊勢市神田久志本町1474-3 伊勢倉田山ぶんか館 TEL:0596-23-5166 FAX:0596-23-5241 http://www.isebito.com/

○お求めは三重県下の主要書店、ホームページ、または直接当社まで。